

# 「選挙って？」児童に解説

大学生が小学生に選挙の意義や投票の仕組みなどを講義する「選挙啓発出前講座」が、新座市立陣屋小学校（入山尚浩校長、児童数505人）で行われ、6年生らが聴講した。市選挙管理委員会と同市の十文字学園女子大が共同で企画した。

若年層の政治離れや投票率の低下に歯止めを掛けようと、

（毛利伸一）

## 十文字学園大生が出前講座



新座市立陣屋小で6年生児童に投票箱の説明をする十文字学園女子大学の学生—新座市野火止1丁目

## 新座市選管と連携

講座は同校図書室で行われ、6年生計91人が参加。いずれも同大児童教育学科3年の真野かれんさん、最上瑠莉乃さん、福田彩乃さん、反町菜子さんの4人が講師を務めた。ビデオやパワーポイントなどを活用し、クイズ形式で選挙の仕組みや投票の大切さを説明した。

例えば選挙は何歳から投票できるか「投票用紙にある秘密は何か」「選挙に一番来た人が特別に行うことはな」といった投票の大切さを説いた。

6年の高沼大地君は「投票用紙を数える計数機の早さに驚いた。国が決めたことだけになると、国民が悲しむ結果になるので、選挙は必ず行くことを決めた。」

答を分かりやすく解説した。また投票箱や計数機を持ち込み、投票の仕方や手順などを説明。学校の休み時間に遊びを決める際に各自の意見が大切なことを例に「国や市町村などの選挙に行かないと、自分の理想や考え方が反映されず、自分のためにもならない」と投票の大切さを説いた。

市選管は市内の同大や立教大で啓発講座を開催している。ただ、投票率の低下傾向が続く、幼少時代に親とともに投票所に出向いた子どもは成人後に投票する確率が高いことなどから、地域連携を進めている同大と協議し、小・中学校で出前講座を実施することを決めた。